

平成31年度使用中学校用教科用図書を選定理由書

1 種 目 特別の教科 道徳

2 発行者名 116 日本文教出版

3 選定理由

本地区の生徒は、明るく素直な生徒が多く、あいさつの習慣が身につけている。一方で、粘り強く自分を高めていこうとすることや、地域に主体的に関わり、貢献しようとする態度がやや不足している傾向が高い。また、SNSによるコミュニケーションが日常化している生徒たちにとって、SNSでの誹謗中傷やいじめ等の問題も身近な存在となっており、深刻化するトラブルを未然に防ぐ上でも家庭や地域と連携した取組がより一層求められている。

道徳の授業については、各学校において、生徒の発達段階や特性等を踏まえ、計画的に行われているが、道徳的な課題を自分自身の問題として捉え、多面的・多角的に考えたり、議論等を通して考えを深めたりする指導が十分でないといった課題が挙げられる。

このような実態や課題を踏まえ、次の視点について考慮されている。

○ 多面的・多角的に考えたり、主体的に考え行動することにより充実した学習活動を行うための工夫

生徒が多面的・多角的に考えることができるような充実した学習活動を展開するために「道徳ノート」を併用することで、自分の意見を表出させ、言語活動の充実を図るための工夫が見られる。また特設ページの「学習の進め方」には、役割演技や動作化などを通して多様な見方・考え方に気づくことができるような体験的な活動が多く提案されるなどの工夫が見られる。

○ 身近な社会問題等を取り扱い、自分も主体的に解決すべき課題として捉えさせ深く考えさせる工夫

「情報モラル」「いじめ問題」等の社会的問題に関しては、複数の題材を配置し、重点化させるとともに主体的に自分との関わりで考えを深めさせるよう工夫している

○ 生徒にとって道徳を学ぶ上で使いやすく、教師が分かりやすい学習活動を構成するための工夫

巻頭に当該学年におけるテーマを示し、「道徳科で学ぶこと」で道徳学習の意義を明確にし「道徳科の学び方」で、議論を通して学びを深めることの大切さを示すことにより、なぜ学ぶのか、どのように学ぶのかを常に意識できるような工夫が見られる。また、「道徳ノート」に自分の考えや友達の見解、自分への振り返りを書かせることで、意見の交流を活性化することや、生徒が自己の心の成長を視覚的に振り返ることができるような工夫が見られる。

○ 地域の課題や伝統文化等に目を向けるための工夫

本県・本地域に関わりの深い内容（第2学年の「初心」井上康生氏に関する教材文）を取り上げ、生徒が親しみやすく、身近な話題として学びやすくする工夫が見られる。また、郷土芸能や郷土に尽くした先人の生き方を取り上げ、郷土に貢献しようとする態度を養うことができるように工夫している。

このような工夫により、生徒にとってわかりやすく、教師にとっても使いやすく、教えやすいものとなっている。

これらのことから本採択地区に適している。